

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

7月に科学専門メディアの「ライブサイエンス」など海外メディアが、地球の自転速度が徐々に加速との情報が気になった。地球の一日である24時間

とは、自転軸を中心に回転するのにかかる時間だ。地球の自転速度は長い年月をかけて穏やかに減速してきた。14億年前には18時間だった地球の一日は、24時間まで延びているとの科学界の研究もある。最近の研究によれば、人間の活動が地球の自転の変化に影響を与えていることが示された。米航空宇宙局の研究チームは、気候変動により氷と地下水が移動することで長くなっていると算出している。

また米ハーバード大学の研究チームは、世界で建設された7000基近くのダムに水がためられたことによって地球の自転軸が1センチずれたとして地球の重量バランスの今後の変化を警告した。軸が1センチずれ、北極点と南極点の位置も移動、地球規模の温暖化により、今後世界各

地でも水や電力の不足によるダムの建設が相次ぐだろう。その影響が、更なる気候変動を悪化させないことを祈るばかりだ。先月26日に内閣府が公開した富士山が噴火した場合の想定シミュレーションCGや被害想定に驚きを感じた人

は多いはずだ。5600年間に180回噴火とは、単純に割ると30年間に1回噴火しないといけないが3000年噴火していない富士山。いつ噴火しても不思議でない状況だ。噴火すれば首都圏だけの震源域全長は700キロに達し、これまでの想定を越えるM9クラスの「超」巨大地震なるとして、想定被害を見直し災害関連死亡の想定は約13倍に。日本の経済も財政も壊滅状態になりかねない

## 常に災害を想定した地域運営が求められる

9月訪れた金沢兼六園、邸内の芝管理の取り組みが日本庭園の素晴らしさを醸し出す



私達地域の経済や地方自治の運営も、常に最悪の状況を想定しながら考えるべきだ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)